

平成28年度 病害虫発生予察情報

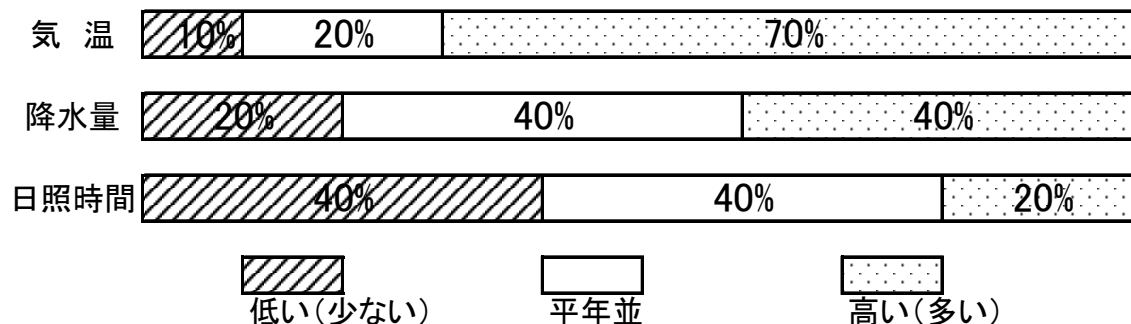
発生予報 第1号（4月）

平成28年 4月 5日
島 根 県

予報の概要

区分	農作物名	病害虫名	予想発生量
普通作物	ムギ	さび病類	やや多い
		赤かび病	平年並
		うどんこ病	平年並
果樹	イネ	イネミスヅウムシ	やや少ない
	ナシ	黒斑病	平年並～やや多い
野菜	タマネギ	ハダニ類	平年並
		ボトリクス属菌による葉枯れ	平年並
		白色疫病	やや少ない
	イチゴ	べと病	多い
		腐敗病・軟腐病	平年並
		アブラムシ類	平年並～やや多い
		ハダニ類	多い

中国地方1か月予報(4月2日～5月1日・広島地方気象台3月31日発表)
＜向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)＞



A. 普通作物

1) ムギ

(1) さび病類

予報内容

発生地方 県内全域
発生時期 早い
発生量 やや多い

予報の根拠

- ① 3月下旬の巡回調査でコムギ赤さび病の発生を確認した（3月末の発生確認は平成20年以来8年ぶり）。
- ② ムギの生育は早い。
- ③ 4月の気象は本病の発生を特に助長する要因とはならない。

(2) 赤かび病

予報内容

発生地方 県内全域
発生量 平年並

予報の根拠

- ①現在、発生を認めていない。
- ②ムギの生育は早い。
- ③4月の気象は本病の発生にやや助長的である。

(3) うどんこ病

予報内容

発生地方 県内全域

発生量 平年並

予報の根拠

- ①現在、発生を認めていない（平成4年以降、3月末の発生は未確認）。また、近年の発生量は少ない。
- ②ムギの生育は早い。
- ③4月の気象は本病の発生にやや助長的である。

2) イネ

(1) イネミズゾウムシ

予報内容

発生地方 県内全域

発生時期 平年並

発生量 やや少ない

予報の根拠

- ①前年の新成虫発生量は少なく（平年比34%）、本年の越冬量は少ないと考えられる。
- ②4月の気象は本種の発生にやや助長的である。

B. 果樹

1) ナシ

(1) 黒斑病

予報内容

発生地方 県内二十世紀栽培地帯

発生量 平年並～やや多い

予報の根拠

- ①前年の発生量は平年並みである。
- ②4月の気象は本病の発生にやや助長的である。

(2) ハダニ類

予報内容

発生地方 県内ナシ栽培地帯

発生量 平年並

予報の根拠

- ①誘殺バンドによる越冬調査ではカンザワハダニの発生園率は0.0%（平年27.4%）、平均越冬虫数は0.0頭/バンド（平年1.0頭/バンド）とやや少ない。
- ②4月の気象は本種の発生にやや助長的である。

C. 野菜

1) タマネギ

(1) ボトリチス属菌による葉枯れ

予報内容

発生地方 県内全域

発生量 平年並

予報の根拠

- ①3月下旬の巡回調査で、発生を認めていない。
- ②4月の気象は本病の発生を特に助長する要因とはならない。

(2) 白色疫病

予報内容

発生地方 県内全域

発生量 やや少ない

予報の根拠

- ①3月下旬の発生量は、発生圃場率が10.0%（平年30.8%）、発病株率は0.4%（平年1.0%）と平年に比べてやや少ない。
- ②4月の気象は本病の発生を特に助長する要因とはならない。

(3) ベと病 (※平成28年3月30日付けで平成27年度注意報第3号を發表中)

予報内容

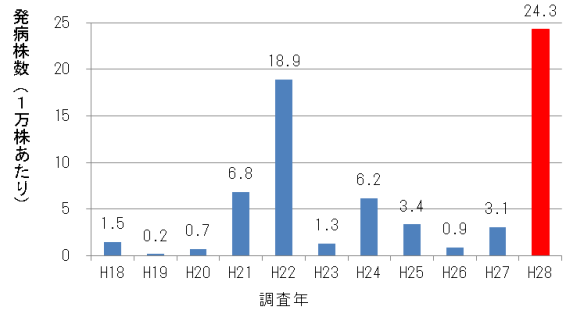
発生地方 県内全域
発生量 多い

予報の根拠

① 3月下旬の越冬罹病株の発生量は、1万株当たりの発病株数は24.3株(平成4.3株)と過去10年で最も多い、発生圃場率は53.3%(平成25.0%)と過去10年で2番目に多い。

② 4月の気象は本病の発生に助長的である。

注) 平成27年度 注意報第3号 参照



タマネギベと病における1万株当たり発病株数の推移(3月末調査)

(4) 腐敗病・軟腐病

予報内容

発生地方 県内全域
発生量 平年並

予報の根拠

① 3月下旬の発生量は、発生圃場率が16.7%(平成12.0%)、発病株率は0.4%(平成0.3%)と平年並みである。

② 4月の気象は本病の発生にやや助長的である。

2) イチゴ

(1) 灰色かび病

予報内容

発生地方 県内全域
発生量 平年並

予報の根拠

① 3月下旬の発生量は、発病葉率が0.6%(平成0.6%)、発病果梗率は0.4%(平成0.2%)と平年並みである。

② 4月の気象は本病の発生にやや助長的である。

(2) うどんこ病

予報内容

発生地方 県内全域
発生量 平年並

予報の根拠

① 3月下旬の発生量は、発病葉率が0.0%(平成0.1%)、発病果率は0.1%(平成0.2%)と平年並みである。

② 4月の気象は本病の発生にやや助長的である。

(3) アブラムシ類(ワタアブラムシなど)

予報内容

発生地方 県内全域
発生量 平年並～やや多い

予報の根拠

① 3月下旬の発生量は、発生圃場率が22.2%(平成20.7%)、寄生株率は2.2%(平成2.0%)とほぼ平年並みである。

② 4月の気象は本種の発生にやや助長的である。

(4) ハダニ類(ナミハダニなど)

予報内容

発生地方 県内全域
発生量 多い

予報の根拠

① 3月下旬の発生量は、発生圃場率が88.9%(平成45.6%)、寄生株率は41.1%(平成15.5%)と多い。

② 4月の気象は本種の発生にやや助長的である。

注) 平成28年度 病害虫発生予察情報 技術資料第2号 参照。

【参考となる事項】

1) 用語の基準と使用法

(1) 平年値

病害虫の発生時期、発生量は過去10年の平均とします。

(2) 平年値との比較

発生時期：平年値からの差を5段階で評価します。

早い	やや早い	平年並	やや遅い	遅い
6日以上早い	3～5日早い	平年値を中心として 前後2日以内	3～5日遅い	6日以上遅い

発生量：発生密度や発生面積の平年値からの差を5段階で評価します。

少ない	やや少ない	平年並	やや多い	多い
外側10%の入る幅	外側20%の入る幅	平年値を中心として 40%の度数の入る幅	外側20%の入る幅	外側10%の入る幅

2) 病害虫防除所ホームページには、予察情報のほか、技術情報や各種のグラフ、写真を掲載しています。

防除所のアドレスは

http://www.pref.shimane.lg.jp/industry/norin/gijutsu/nougyo_tech/byougaityuu/

3) 最新の農薬登録状況

独立行政法人 農林水産消費安全技術センターホームページには、農薬の登録や失効に関する情報、農薬登録情報検索システムなどが掲載されています。

農林水産消費安全技術センターのアドレスは <http://www.acis.famic.go.jp>

農薬の安全使用の徹底を！

- ・ 農薬の使用基準（適用作物、使用量又は濃度、使用時期、総使用回数）を遵守する。
- ・ 防除履歴（使用日時と場所、作物名、農薬の種類と量）を記帳する。
- ・ 農薬散布時には周辺作物に飛散（ドリフト）しないように注意する。
- ・ 水田で使用する農薬の止水期間を守る。
- ・ 有効期限切れ農薬は使用しない。
- ・ 散布後は散布器具の洗浄を徹底し、空き容器は正しく処理する。
- ・ 病害虫の発生状況を把握し、必要最小限の農薬使用に努める。

島根県病害虫防除所
(島根県農業技術センター 資源環境研究部 病虫科)
〒693-0035 出雲市芦渡町2440
TEL 0853-22-6772
FAX 0853-24-3342
e-mail boujyo@pref.shimane.lg.jp